

地方の課題

衆院選17

②アベノミクス

「なんと言っても交通ア
クセスがいい。工場に必要
な水が潤沢なことも決め
手」。伊勢崎宮郷工業団地
(伊勢崎市)
に進出する自
動車部品製
造、サカエ工
研工業(愛知
県)は同団地を選んだ理由
をこう説明する。トヨタや
ホンダ、日産と取引がある
部品大手で、茨城県や埼玉
県からも誘われていたとい
う。

景気回復
実感に差

業都市。国道17号上武道路
や国道354号バイパス
(東毛広域幹線道路、北関
東道が接続する交通網が評
価され、企業進出が好調だ。
2年前に分譲受け付けを始
めたばかりの同団地は全47
社が完売する見通しだ。
「景気の良い転機もある。三
和の時はバブル後で苦勞し
た」と市の担当者。完売ま
で10年以上かかった伊勢崎
三和工業団地との違いに驚
く。安倍政権の経済政策ア
ベノミクスで田安と株高
が進み、大企業を中心に業
績が回復した影響が大きい
と分析する。

「フリーバック」企業誘致の受け皿不足を解消す
るため、県は市町村とともに合計百五十以上の工
業団地造成を早急に始める。北関東沿線を中心に
複数箇所に造成、在庫を増やし、進出企業の手
まねに二スに広がる。
(2008年6月11日付上毛新聞)



自動車部品などを手掛ける伊勢崎市内の工場。仕事は増えたが、利益確保に苦労している

促す通知を送ると発表し
た。群馬労働局が労災認定
した3人には今週中にも賠
償の要件などを記したリー
フレットを送付する。
対象は、1958年5月
71年4月に石綿工場で働
き、中皮腫などの石綿関連
疾患で労災認定されるなど
したが、まだ訴訟を起こし
ていない人。リーフレット
は被害者本人や遺族に送
る。
現時点で名前や住所が分
かっているのは約2300
人のうち約760人。住所
の分からない人については
引き続く調査し判明次第、
送付する。
国の賠償責任が確定した
「泉南アスベスト訴訟」最
高裁判決から約3年となる
が、提訴者が増えず被害者
の救済がなかなか進まない
ことを受けた措置。国が個
別に国家賠償を促すのは異
例という。
アスベスト被害者の救
済活動をしている大坂ア
スベスト弁護団4団体
は、4、5の両日、無料の
全国ホットライン(フリー
ダイヤル0120・117
・554)を開設する。両

日とも午前10時〜午後7
時。
秋の交通安全運動
期間中の死者2人
県警まとめ
秋の全国交通安全運動期
間中(9月21〜30日)に県
内で交通事故で死亡したの
は、昨年と同数の2人だっ
たことが3日までに、県警
のまとめで分かった。
22日朝に沼田市の関越道
下り線、渋川市の男性会
社員(32)の乗用車が、路肩
のり面のコンクリート製橋
桁に衝突し、男性が死亡し
た。26日朝には沼田市の県
道で、ツーリング中の男性
会社員(50)千葉県の大
型バイクがトラックと乗用
車に相次いで衝突し、男性
は亡くなった。
県内の死者数は1日現在
で、昨年同期より10人多い
51人。交通安全課は「薄暮
時間帯を中心に、引き続き
街頭活動や取り締まりを強
化する」としている。
警察庁によると、秋の期
間中の全国の死者は昨年よ
り9人少ない94人。記録が
ある1954年以降、最少
だった。

GIA応募 最多185件

起業家発掘 高校生、前年の3.8倍



5年目となる起業家発掘プロジェクト群馬イノベーションアワード(GIA2017)のエントリーが9月末で締め切られた。エントリー総数は前年の1.5倍の185件で、過去最多を更新した。慶応大湘南藤沢キャンパス(SFC)と連携した起業家育成政策の導入により、高校生の応募が大幅に増えた。地方再生や地域課題の解決に向けた意欲的なプランが目立つ。

12月に公開最終審査会

内訳は、起業や第二創業を目指す「ビジネスプラン部門」のうち、高校生の部が前年の3.8倍の105件で、大学生・専門学校生の部が20件、一般の部が38件。創業5年未満が対象の「スタートアップ部門」は15件。創

今回から高校生の入賞者はSFCのゼミでビジネスプランを磨き、米国シリコンバレー研修に参加できる。こうした経験はSFCのアドミッション・オフィス(AO)入試でアピールポイントになる。SFCに進学した場合、田中仁財団が奨学金を提案する。プロジェクトを支援する金融機関「フィナンシャルサポーター」18社が今月中旬までに書類審査をする。通過者は29日のプレゼンテーション審査で、公開最終審査会(ファイナルステージ)12月2日・ヤマダグリーンドーム前橋に進む15件に絞られる予定。

富岡出身の横山・東大大学院教授
物理学賞受賞を祝福



記者会見する梶田さんと横山さん(右)

2017年のノーベル物理学賞が発表された3日、受賞した米国人研究者と親交のある東大大学院ビッグバン宇宙国際研究センター

エコパーク登録
「活動を広げて」

みなかみで記念式典



磯田主査(右)から認定証を受け取る岸町長

エネスコエコパークに6月登録されたみなかみ町は3日、町内で登録記念式典を開いた。日本エネスコ国内委員会MAB(人間と生

物園)計画分科会の磯田博子主査が、エネスコ本部(フランス)から届いた登録認定証を岸良昌町長に手渡した。

式典で、磯田主査は「登録が終点ではない。特徴ある取り組みをさらに推進し、世界のエコパークの一員として活動の場を広げて

ほしい」と激励した。岸町長は「これまで協力していた全ての人が登録への功労者。これを次の発展の機会としていこう」と述べた。登録エリアがまたがる新潟県側の田村正幸湯沢町長をほしめ、魚沼、南魚沼両市や国の行政機関、地元商工会、観光協会、区長などとの関係者約150人が出席し、登録を改めて祝った。町の自然環境や生物多様性の保護に取り組む団体や活動家も参加した。みなかみエネスコエコパーク、谷川岳エコツーリズムなどを紹介する展示も行われた。



失敗に終わった「赤城二輪車博物館」の看板

横田 正弘さん

コレクションした古いオートバイを公開したいという気持ちで募り、1983年に当時の富士見村の赤城山中腹に「赤城二輪車博物館(アカギ・モーターサイクル・ミュージアム)」をオープンした。建坪約1600平方メートルの館内に約50台をぎっしり並べた。日本製バイク躍進の立役者となった「ホンダCB750FOUR」や「ナハハン・キラー」と呼ばれた「ヤマハRZ350」など、わねながらかなりのコレクションだと思っていた。

見通し甘く4年で閉館

自己顕示欲というよりも、古いバイクの魅力を広めて、同好の士と交流したかった。その上で利益も得られればという皮算用だった。当時は空前のバイクブームで若者の人気が高潮。これだけの名車を集めれば必ず人気施設になるだろう」と考えた。ところが客足が伸び悩み、経営は赤字すすの状況が続いた。

今から思うと理由はたくさんある。本当は交通量の多い県道沿いに建てたかったのだが、資金不足からアクセスの悪い土地で妥協してしまっ

赤城山に二輪車博物館

なにより、若かった私は自分が大好きなのは他人も大好きだろうと思込んでいた。この博物館は自己満足に終始し、来館者を喜ばせるという発想を全く欠いていた。博物館は4年ほどで閉館した。高い授業料だったが、博物館経営の生きた教訓を得られた。私も日曜にチケット売り場に立ち、じかに来館者に触れ合えたことも大きな勉強になった。

この失敗が、今の私と今の博物館をつくったと言っても過言ではない。

地域密着のニュースサイト



よんななニュース
http://www.47news.jp/

検索

- 47都道府県52新聞社が総力を結集
- 地方紙1万人のプロ記者が全国津々浦々くまなく取材
- 地域の文化や活力を地元から紹介
- 写真充実 スマホからも見やすい「47SPORTS」

- ▶新聞社の社説・コラム読み比べ
- ▶旬のテーマを社説・コラムと関連記事で斬る「47トピックス」
- ▶野球、サッカー、高校スポーツ
- ▶心なごむ「ホットニュース」、日本全国食べ歩き「ニッポンのGOHAN」
- ▶アメフト専門サイト「TURNOVER」
- ▶新刊本・音楽・映画のこだわり紹介
- ▶女優・洞口依子さんのコラム
- ▶地域再生、東日本大震災、医療、学び...
- ▶オリコン提供エンタメニュース
- ▶マーケット速報、NNAアジア経済ニュース

Japan Press Network
47NEWS
日本が見える
(株)全国新聞ネット